

日本生物地理学会学会シンポジウム

日本初記録ホシスグリクラゲ *Calycopsis simplex* について

○大西智也（足摺海洋館）・戸篠祥（黒潮生物研究所）

峯水亮（峯水写真事務所）

【背景・目的】 スグリクラゲ科 Bythotiaridae はヒドロ虫綱花クラゲ目に属する。世界中に広く分布し、外洋の深海域を中心に報告されてきた。これまで 11 属 38 種が知られており、日本ではコバンクラゲ *Bythotiara depressa* やキライクラゲ *Calycopsis nematophora*、クズダマクラゲ *Meator rubatra* などの出現記録がある。本研究では静岡県および高知県にてホシスグリクラゲ *Calycopsis simplex* を採集したので、その詳細を報告する。

【材料・方法】 2024 年 1 月 25 日に高知県大月町大浦漁港にて、海面を漂っていたヒドロ虫綱のクラゲを 1 個体発見し、柄杓を用いて捕獲した。クラゲは生時に実体顕微鏡下で形態観察を行ったのち、体全体および各部を撮影した。撮影後、塩化マグネシウム飽和水溶液を滴下して麻酔し、5%ホルマリン海水で固定した。また、分子系統解析用に触手を 1 本採取し、99.5%エタノールで保存した。分子系統解析は 16S rDNA について行った。

【結果・考察】 形態観察：本標本の傘は球状で、傘の上半分から傘頂部にかけてゼラチン質が肥厚する。傘高 7.1 mm、傘径 8.3 mm。放射管は 4 本あり、枝分かれしない。求心管は間軸上に 4 本あり、傘縁から傘頂部に向かって伸長し、傘の 2 分の 1 から 3 分の 1 に達する。口柄は円筒形で長さは傘高の約 3 分の 1。生殖巣は口柄を取り囲むように発達し、襞をなす。触手は 8 本あり、触手基部は肥厚する。また、触手先端に楕円形の刺胞瘤をもつ。傘は透明で生殖巣は黄色、触手の刺胞瘤は赤茶色を呈す。傘縁や触手基部に眼点はみられない。

分子系統解析：16S rDNA 領域の塩基配列約 600 bp を決定し、分子系統解析に供した。得られた塩基配列は Blast を用いて類似の配列を検索したところ、スグリクラゲ属の一種 *Calycopsis simplex* と最も近縁で 96.6%一致した。また、

最尤法により得られた分子系統樹では、5つのクレードが形成され、高知産標本は *C. simplex* と同じクレードに位置することが強く支持された。

形態観察および分子系統解析の結果より、本種は *C. simplex* とし、日本海域からの初記録であるため和名“ホシスグリクラゲ”を提唱した。